

いわき農林水産ニュース

令和元年12月号（第178号）発行 12月26日

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース



11月から本格出荷を迎え、今が出荷のピークとなります。是非いわき産のシクラメンをお手にとってみてください！

目次

・【特集】2019年の4大ニュース！……………p.1

〔各種取組の実績（11～12月分）〕……………p.4～

〔お知らせ・連載記事〕

・いわき地方の出荷制限等品目……………p.7

・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果……………p.7

・イベント情報……………p.8

・GAP コーナー……………p.9

・6次化商品紹介……………p.10

【特集】

いわき農林事務所・水産事務所 2019年の4大ニュース！

2019年も残りわずかとなりました。いわき管内は10月の台風等により甚大な被害に見舞われ、現在も復旧に向けた作業が続いています。一方で明るい話題も多くあり、実りの多い1年になりました。年内最後の発行となる今月号では、いわき農林事務所・水産事務所が「今年1番！」と考える明るいニュースをご紹介します！

1. 久之浜地方卸売市場の再開 ～満を持して、いわき北部の拠点復活！～(9月)

いわき市漁業協同組合は底びき網漁の解禁に合わせ、9月から久之浜地方卸売市場（p.9 地図参照）を開場し、約8年半ぶりに入札販売を再開しました。初水揚げとなった9月2日には大勢のマスコミ取材陣を前に、江川組合長から、今後、水揚量の倍増を目標にするとの力強い宣言がありました。

久之浜地方卸売市場は震災前、いわき市漁協全体の水揚量の約半分を占めていた一大拠点であり、再開場により沼之内魚市場と合わせて試験操業の水揚げ拡大に貢献しています。今後は品質の高い‘常磐もの’の魚介類を多くの消費者に届けられるよう活魚槽の導入など市場機能の充実を図りながら、更なる水揚げ拡大の後押しとなることが期待されます。（水産事務所）



（組合長から「水揚げ倍増」を力強く宣言！）



（‘常磐もの’ ヒラメ、アナゴがずらり！）

2. 高校生がいわきの食材を活かしアイデア溢れるレシピを開発！

「第2回高校生レシピコンテスト」(2月)

当所では、昨年度に引き続き「第2回高校生レシピコンテスト」を開催しました。今回は新たな取組として「いわき市産トマト、ネギ、きのこ」の3つのテーマ食材を活用したオリジナルレシピを募集し、書類審査を通過した5組の高校生たちが、2月に調理実演、実食審査を通して競い、グランプリ作品を決定しました。グランプリ作品を含む書類審査を通過した5作品は、市内の5カ所の飲食店にて期間限定で提供された他、市内大手企業の社員食堂で提供されるなど、コンテストが多くの方々から注目されていると感じました。



(集合写真)



(料理の様子(実食審査))

また、来年1月には「第3回高校生レシピコンテスト」の2次審査会を開催予定です。実食キャンペーンもありますので、是非、審査の結果にご注目ください。なお、1次審査(書類審査)の結果については、p.8をチェック！ (企画部)

なお、第3回レシピコンテストに協賛いただいている株式会社いわきスポーツクラブが運営するサッカーチーム、いわきFCの日本フットボールリーグ(JFL)昇格が12/5に正式決定!いわき市・浜通り地域に明るい話題を提供してくれました。今後の活躍を期待しております！

3. 芳賀正道さんが第50回東北農村青年会議で優秀賞を受賞！(9月)

第50回東北農村青年会議が、青森県南津軽郡大鰐町で開催されました。東北地域の若手農業者が一堂に会して、各県の代表が日ごろの農業経営の取組や意見などを発表し、東北農業の意欲ある新しい担い手としてレベルアップできる大会となりました。

いわき農業青年クラブ連絡協議会に所属する芳賀正道さん(田人町)は、今年1月21日の県大会で優秀賞となり、福島県代表として発表を行いました。

発表内容は、就農のいきさつや耕作放棄地を活用してワイン用ブドウ栽培に取り組み始め、将来は地ワインをつくり地域に貢献したいという熱意あふれるものです。

県大会後の8か月間、青年クラブの仲間たちや市・農林などの関係機関による定例会が行われ、発表方法の改善やパワーポイントなどの資料の修正を重ねていきました。

その成果が発揮されたのでしょうか。発表の結果、最優秀賞に輝き、令和2年2月に東京で開催される全国大会に東北の代表として発表することになりました。芳賀さんは、「全国大会でも上位に輝けるよう、発表内容に磨きをかけていきたい」と今後の抱負を語っていました。(農業振興普及部)



(最優秀賞を受賞された芳賀さん)

4. きのこと生産者がいわきで初めてFGAPを取得！(8月・11月)

令和元年は、いわき管内で初めてきのこ生産者によるふくしま県GAP (FGAP) 認証が取得されました。8月29日に「農事組合法人いわき菌床椎茸組合」、11月26日に「小川きのこ園」が、それぞれ取得し、当所の松房所長から認証書が手渡されました。



(認証書を手に入れた(いわき菌床椎茸組合)) (認証書の交付(小川きのこ園))

この2社で県内のしいたけ生産量の4割以上を占めており、今回の認証取得による本県しいたけ生産への波及効果は大きいと考えられます。

来年も、安全・安心なきのこを提供していくため、認証GAPの取得推進に取り組んでまいります。(森林林業部)

今回取り上げたニュース以外にも各月号で様々な話題を発信してまいりました。来年も引き続き、管内の農林漁業者の皆様のご協力をいただきながら、いわきの農林水産業のますますの発展のために取り組んでまいります。

トピック1

水産海洋研究センター「参観デー」を開催！

〔12月1日(日)〕

水産海洋研究センターが新庁舎となって初めての参観デーを開催しました。新しい施設を開放するとともに、水産分野を身近に感じていただくため、魚に関する様々な体験メニューを用意しました。カラフルで綺麗な魚拓づくり、かわいい形のかまぼこづくり、魚体の仕組みを学べる解剖体験の各コーナーには、子供たちが楽しく夢中で参加してくれました。

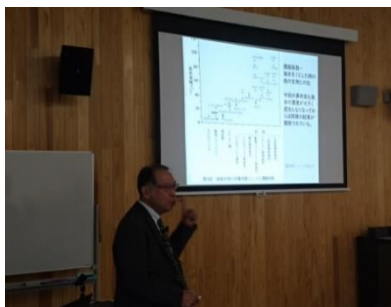


また、特別講演会として、東京海洋大学の石丸隆名誉教授から「福島海と今」と題し、震災以降の放射能の推移状況などを来場者にわかりやすくお話しいただきました。さらには、新施設の見学ツアーや小名浜魚市場での調査船「いわき丸」の公開には、多くの参加者でにぎわいました。

(水産海洋研究センター)



(解剖にチャレンジ)



(特別講演会)



(施設見学ツアー)

台風第19号等被害の復旧工事に向けて災害査定を受ける

〔12月2日(月)～
12月20日(金)〕

10月に発生した台風第19号等の豪雨により、農林業も大きな被害を受けました。被害を受けた農地・農業用施設(水路、農道、取水堰等)や林道は、元通りに使えるように「災害復旧事業」を活用して復旧工事を行います。

この復旧工事について国の補助を受けるため、農林水産省と財務省の担当官に対し、現地で被害状況や復旧工事の計画を説明(申請)して、補助の承認を得る手続きを「災害査定」といいます。

12月第1週と第3週に農地・農業用施設、第2週に林道の災害査定を受けました。

農地・農業用施設については、2週間にわたり、農地32件、農業用施設50件、農業集落排水施設(農村部の下水道)3件、合計85件の復旧計画について災害査定を受けました。災害査定を受けるには、まず被害状況の確認を行い、その上で復旧方針及び復旧計画(復旧事業費算定含む)等を短期間にとりまとめる必要があり、当部ではいわき市への作成支援等を被災発生直後の10月から進めてきました。

災害査定の結果、復旧計画のほとんどについて申請どおりに認められたことから、今後速やかに工事発注の準備を進め、農地・農業用施設の復旧を図ってまいります。

林道については、被災した林道のうち13路線16箇所が災害査定を受けました。査定は、現地と机上とに分けて実施され、ほぼ申請どおりの内容が認められたことから、査定率は約98%となりました。今後、いわき市では被災した林道の早期復旧を図るため、計画的に工事を発注していく予定です。



復旧計画を説明している様子
(三和町)

県水産海洋研究センター公開講座を開催

〔12月9日(月)〕

豊間中学校の1、2年生31名が、水産海洋研究センターが今年度から実施している公開講座に参加しました。生徒たちは研究員から親潮と黒潮が交わる本県の漁場、魚介類の特徴やモニタリングを通じた安全・安心に向けた取組について学ぶとともに、実験室では精密測定の様を見学したり、調査船いわき丸に乗船して調査機器の説明を受けたりと、



(アワビの年齢調査)

普段の授業にはない体験学習となりました。生徒たちは最初、緊張した様子でしたが、研究員や船舶職員の話に熱心に耳を傾けていました。本県水産業の現状や試験研究機関の取組を理解する貴重な機会になったのではないかと思います。



(いわき丸操舵室の見学)

(水産事務所)



スマート林業現地検討会を開催

〔12月2日(月)～3日(火)〕

いわき市森林組合及び三和町の森林認証林において、スマート林業実践対策業務の関係機関と日本森林技術協会、群馬県森林組合連合会が参加し、いわき地域スマート林業実践対策業務現地検討会が2日間に渡って開催されました。

検討会では、初日にいわき市の林業の現状や業務で検討しているいわき版森林クラウドの概要、さらには、群馬県森林組合連合会のスマート林業(※)の取組について説明があり、2日目には、現地で準天頂衛星(みちびき)の受信機を使い、位置情報の把握状況について確認をしました。



(現地検討会の様子)

参加者からは、川下の製材所等のニーズを川上の森林所有者等に効率的に伝えるモデル的なシステムを構築すべきとの意見が出されました。

今回検討された内容を踏まえ、今後業務の成果をとりまとめ、いわき地域の持続可能な森林・林業の実現に結びつけていきたいと考えております。

(森林林業部)

※スマート林業：地理空間情報やICT等の先端技術を駆使し、生産性や安全性の飛躍的な向上、需要に応じた高度な木材生産を可能とする林業

いわき地域産業6次化ネットワーク交流会を開催

〔12月6日(金)〕

県いわき合同庁舎において、令和元年度いわき地域産業6次化ネットワーク交流会を開催しました。市内の事業者や関係者約50名が参加し、6次化商品の販路開拓に関する講演会、個別相談会及び事業者のマッチング相談会のほか、市保健所と当所による食品表示法研修会を実施しました。



(講演される増田氏)



(講演される植松氏)

講演会では、株式会社タンク代表取締役の増田紀彦氏・いわきユナイト株式会社代表取締役の植松謙氏の2名を講師としてお招きし、「売れる6次化商品の見せ方・伝え方」(増田氏)、「現場で感じる販路開拓のポイント(お土産編)」(植松氏)と題してイベント販売で成果を挙げるための基本的なコツや売れる商品づくりのポイントについて講演をいただき、その後、個別相談を希望した事業者5団体に販路開拓に関するアドバイスをさせていただきました。事業者マッチング相談会では、県中小企業団体中央会の鈴木龍太氏により、事業者へ販路開拓のアドバイスや支援制度などを紹介させていただきました。

食品表示法研修会では、来年4月以降新たな食品表示制度に移行するため、参加した事業者は真剣に説明を聞いていました。

講演会のアンケートでは、参加者から「展示会や販売会ですぐ実践できる知識が身についた」「商品販売市場について理解が深まった」等の声があり、大変好評のうちに終了しました。(企画部)

「Iwaki Laiki ライブキッチン」を開催

〔12月14日(土)・15日(日)〕

JA・米卸業者・市などが活動を進める「Iwaki Laiki」戦略ブランド化推進本部では、市内平の Resort & Dining Cascade (カスケード) (p.9 地図参照) において「出張 LIVE! おにぎり浅草宿六」を開催し、いわきの最高級コシヒカリ「Premium Iwaki Laiki」のおいしさと魅力を発信しました。



参加者に Premium Iwaki Laiki のおにぎりを振る舞う三浦氏

会場では、「ミシュランガイド東京 2019・2020」に掲載されている「おにぎり浅草宿六」店主の三浦洋介氏が、参加者 60 名の目の前で「Premium Iwaki Laiki」のおにぎりを握り、振る舞いました。他にも、好きな具材を選んでおにぎりを作る「おにぎりピュッフェ」や、生産者から「Premium Iwaki Laiki」の知識を学ぶ「ごはんの学校」など様々な企画が実施され、会場は大いに盛り上がりました。

また、翌日 15 日(日)にはマルト SC 高坂店において三浦氏からおいしいおにぎりの握り方を学べる「おにぎり浅草宿六直伝! おにぎりワークショップ」が開催され、こちらも大好評でした。

なお、この事業は、県の「『ふくしまプライド。』販売力強化支援事業」を活用しています。

(企画部)

トピック2

三和農地水組合(多面的支払交付金)の取組が表彰されました

我が国の農業・農村は、水源の涵養(かんよう)、国土の保全、美しい景観の提供など、多面的な価値を有しています。農村に住んでいる方達は、昔からこの価値を守るために様々な地域活動を行って来ましたが、農村の人口減等から活動を続けることが難しくなっています。これらの活動を支援するため、国



(草刈活動状況写真)



(組合の代表者会議)

は「多面的機能支払交付金」制度を創設して地域共同活動に補助金を交付しており、県内では約 1,400 組織(いわき市内は 53 組織)がこの制度を活用して、多面的機能の維持・向上に取り組んでいます。

この取組について、県内の優良な活動団体を表彰する「多面的機能支払交付金優良活動表彰 令和元年度受賞組織」が 11 月に発表され、いわき管内からは、「三和農地水組合」が特別賞を受賞しました。

三和地域では、平成 19 年から 5 つの組織(上永井、下永井、上三坂、下三坂、差塩)がこの活動を始めましたが、会計処理や活動記録作成等の事務の負担が大きかったため、三和土地改良区(当時)に事務を委託していました。その後、事務作業の効率化を進める方法として組織の合併・広域化を進め、平成 26 年の三和土地改良区解散を機に、前述の 5 組織は三和農地水組合を設立し、同時に元改良区の職員を雇用して運営基盤を強化しました。平成 27 年には中三坂、渡戸、中寺の 3 組織が加わって三和地域全体で更に効率的な運営が行えるようになり、これらの取組が優良事例として評価されて今回の受賞に至りました。

組織の広域化は、事務担当者の専門化などによる運営の効率化だけでなく、地域の人材・機材の有効活用も図ることができるため、活動の質の向上にも有効です。

(農村整備部)



お知らせ

いわき地方の出荷制限等品目

□ 農林畜産物の出荷制限等品目

令和元年12月20日現在、いわき地方の農林畜産物のうち、出荷が制限等されている品目は（表1）のとおりです。

出荷制限等品目は、出荷・販売だけでなく、宿泊施設等での提供や加工用原材料として使用することもできません。また、自主検査等により基準値（100Bq/kg）以下であっても出荷・販売はできませんのでご注意ください。（企画部）

（表1）農林畜産物の出荷制限等品目（令和元年12月20日現在）

制限、自粛	区 分	品 目
出荷制限	山 菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、 わらび（野生のものに限る）*、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ（摂取も制限）
出荷自粛	山 菜	さんしょう（野生のものに限る）

*わらび（栽培）は該当生産者12名のほ場に限り出荷制限が解除されました。

□ 海産魚介類の出荷制限等品目

令和元年12月16日現在、出荷制限等指示魚種は（表2）の1種類になっています。（水産事務所）

（表2）海産魚介類の出荷制限等品目（令和元年12月16日現在）

制限、自粛	品 目
出荷制限	コモンカスベ

*ピノスガイは令和元年12月3日に制限が解除されました。

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（令和元年11月分）

□ 農林畜産物の検査結果

令和元年11月の農林畜産物モニタリング検査では、検査した14品目30検体すべてにおいて放射性セシウムが基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。内訳は（表）のとおりです。（企画部）

（表）放射性セシウムが基準値以下の品目と検体数

菌床しいたけ（施設）11、エリンギ（施設）2、原木しいたけ（露地）1、ギンナン 1、ユズ 1、ニンジン 1、トマト（施設）1、大豆 1、サトイモ 1、イチゴ（施設）1、くるみ 1、菌床なめこ（施設）1、牛肉 3、原乳 4

□ 海産魚介類の検査結果

令和元年11月の水産物モニタリング検査では、522 検体の魚介類を検査し、放射性セシウムが基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。（水産事務所）

イベント情報

令和元年度第2回経営セミナー

- 日 時：令和2年1月7日（火）
13：30～16：00
- 会 場：JA 福島さくらいわき地区本部 2階大会議室
(p.9 地図参照)
- 主 催：いわき農林事務所

さくら中央税理士法人いわき中央事務所の木幡仁一氏を講師に招き、農業者を対象とした令和元年分の税務申告に関するセミナーを開催します。

講演内容は、10月から導入された軽減税率制度及び台風第19号等被害に対応した税務申告についての解説で、適切な税務申告を行うにあたっての一助となる内容となっておりますので、是非ご参加ください。

■お問い合わせ＆お申し込み

お申し込みは、いわき農林事務所の経営支援課へお願いいたします。(TEL：0246-24-6162 FAX：0246-24-6196)

令和元年度第2回経営セミナー

軽減税率制度及び 台風被害

に対応した税務申告に向けて～

参加者
募集!

日時 令和2年

1月7日 (火)

13：30～16：00

場所

福島さくら農業協同組合
いわき地区本部
2階大会議室
(いわき市自由ヶ丘39-2)

内容

- 1 令和元年分の申告に向けて
 - ・ 所得税の確定申告について
 - ・ 消費税の申告について
 - ・ 災害時の所得税・法人税の特例について
- 2 収入保険について

講師：さくら中央税理士法人いわき中央事務所
木幡 仁一 先生

講師：NOSAI福島いわき支所

第3回高校生レシピコンテスト 2次審査進出作品が決定！

今回で第3回となる「高校生レシピコンテスト」は市内の高校生を対象に「いわき市産トマト、ネギ、きのこ、Iwaki Laiki(米・米粉)」をテーマ食材としたオリジナルレシピを募集し、9つの高校から55作品の応募をいただきました。厳正なる1次審査(書類審査)の結果、5作品が2次審査(実食審査)に臨みます。2次審査に進出された皆様には、日頃の練習成果を十分に発揮していただき、グランプリを目指して頑張ってくださいと思います。

今回ご応募いただいた作品はどれもアイデアに溢れ、様々な工夫を凝らした甲乙付けがたい作品ばかりでした。

なお、2次審査(実食審査)は下記のとおり実施いたします。 (企画部)

第3回高校生レシピコンテスト 2次審査(実食審査)

- 日 時：令和2年1月25日(土) 10：00～
- 会 場：常磐共同ガス(株)ガスワンキッチンスタジオ「ステラ」(p.9 地図参照)
- 2次審査進出作品一覧 ※作品の掲載順序は応募順となっております。

・ 作品名「トマトたっぷりドレسدオムライス」	福島県立勿来工業高等学校	1年	福島	友哉さん
・ 作品名「ゴロツとトマトのフランスパン」	福島県立小名浜高等学校	1年	小野	桜さん 白土 陽愛さん 塩 晏寧さん
・ 作品名「まるごとトマトのスープ餃子」	福島県立いわき光洋高等学校	1年	高萩	理奈さん
・ 作品名「きのこのこのこのにぎにぎり」	福島県立いわき光洋高等学校	3年	本多	美音さん
・ 作品名「フレッシュトマトのなめらかミルクプリン」	福島県立勿来高等学校	1年	佐藤	さくらさん 草野 ひなたさん

GAP コーナー

GAP (Good Agricultural Practice) : 「農業生産工程管理」

GAP 取得事例紹介 ～楽・農・人ゆうゆうファーム～ (令和元年5月)

令和元年5月にフェイジョアでJGAP認証を取得した、「楽・農・人ゆうゆうファーム(市内小川町)」(p.9 地図参照)の丸山雄三さん・友子さんご夫妻からお話を伺いました。

丸山さんがGAPに取り組んだのは、『生産工程管理を実践している農場』と認められることは、「ゆうゆうファーム」の経営の姿を広く知ってもらえる手段になるのでは、と考えたからだそうです。



丸山さんご夫妻
(緑のネットが、文中で紹介した果実の傷みや汚染防止の取組)

整理整頓などやることが多く、苦労はしましたが、農場がきれいになって作業しやすくなりました。何よりも、周囲からの印象が変わったようで、GAP取得をきっかけに数々の企業とのつながりができ、アドバイスや提案をいただけるようになったのがいちばん良かったと思います。



フェイジョアは、ニュージーランドなどで栽培されている、香り高い果物です。

農場を見せていただくと、農場全体が整然としているのはもちろんのこと、フェイジョアに対応した工夫がうかがえました。そのひとつが、園地の地表面に、少し浮かせて張ったネットです(写真)。フェイジョアは収穫期になると自然に落下してしまうので、木に成っている果実をひとつひとつ、手のひらで軽く振動を与えて、枝から離れたものだけを収穫するという、とても繊細な作業になりますが、ネットで受け止めるようにしたことで、落下による傷みや汚染を防げるだけでなく、収穫のときの気遣いがだいぶ少なくなったそうです。

また、先日、復興庁主催で被災事業者支援のワークショップが開催された際、「GAPを取得しました」と自己紹介すると、同席していた数々の大手企業に興味を持っていただいたそうです。そのつながりで、ホテルの朝食の食材に活用されたり、鮮度保持の包装資材や冷凍保存技術の紹介を受けたり、農作業体験ツアーが実現した、などの数々の支援をいただけたとのこと。GAP取得により、『信頼できる農場』との評価につながっているようです。



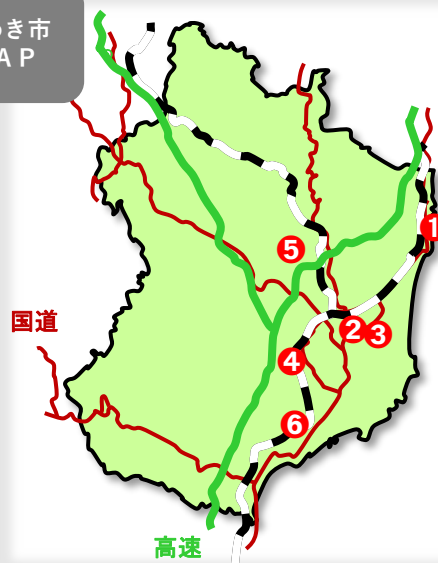
機械を洗った後の污水が園地に入り込まないように、専用の洗い場を設置

(農業振興普及部)

今月号に掲載した場所はここです！

- ① 久之浜地方卸売市場 (p.1)
久之浜町久之浜館ノ山9
- ② Resort & Dining Cascade (カスケード) (p.6)
平三町目 35
- ③ JA 福島さくらいわき地区本部 (p.8)
自由ヶ丘 39-2
- ④ 常磐共同ガス(株)ガスワンキッチンスタジオ「ステラ」 (p.8)
常磐湯本町日渡 74-7
- ⑤ 楽・農・人ゆうゆうファーム (p.9)
小川町塩田字堀口 10-1
- ⑥ 泉水耕農園 思いやりの丘 フクハウス (p.10)
泉町本谷字鹿野 32-20

いわき市
MAP



こだわりと美味しさがつまった いわき自慢の6次化商品をご紹介します！

いわき市泉町の「泉水耕農園 思いやりの丘 フクハウス」では、ハウスで栽培したミネラルたっぷりの発芽にんにくのほか、トマト、イチゴなどを栽培し、多くの6次化商品の開発・販売をしています。

ハウスに隣接する加工場で、生産者の橋本氏が瓶詰め・ラベリング等のすべてを手作りで行っています。

「にんにくしお」はフクハウスの人気商品「がありっくちっぶ」を細かく刻んだものに、岩塩、パセリ等を加えた、一押しの商品です。野菜、肉、魚などの食材、料理のジャンルを問わずに活用できる万能調味料であり、リピーターが続出しています。

「きざみにんにく」は、にんにく特有の辛みが抑えられており、パンに塗ってガーリックトーストにしたり、料理の隠し味として活用するなど使用方法は様々です。

各商品は、フクハウス、ヨークベニマル、JA直売所、道の駅よつくら港で取り扱っているほか、楽天市場でのインターネット販売も行っています。是非お召し上がりください。



生産者の橋本夫妻



**フクハウス
にんにくギフトセット**
3,500円(税込)

●内容/にんにくしお・きざみにんにく・ガーリックオリーブオイル・にんにくみそ・がありっくちっぶ・にんにくしょうゆ



きざみにんにく
●内容量/135g
●販売価格/500円(税込)



にんにくしお
●内容量/120g
●販売価格/500円(税込)

お問い合わせ
泉水耕農園 思いやりの丘 フクハウス
●いわき市泉町本谷字鹿野32-20 ●TEL.0246-88-9885
【楽天市場 通販ページ】 <https://www.rakuten.co.jp/fukuhaus/>

所在地は p.9 のマップを参照



編集後記

早いもので今年も残りわずかとなりました。皆様、新年を迎える準備はできましたか？

さて、この寒い時期に食べたくなるのがお鍋ですね！いわきにはネギやきのこ、タラやアンコウなどお鍋にぴったりの食材が盛りだくさんです。是非、年末年始にはいわきの旬の食材をご家庭で味わってみてはいかがでしょうか？

本誌でご紹介してきたとおり、いわき農林事務所・水産事務所では、今年1年間様々な取組を行うことができました。皆様のお力添えに職員一同、心より感謝申し上げます。それでは、よいお年を！

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)
TEL (0246)24-6152 FAX (0246)24-6196
URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース